

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 8 月 8 日

【評価実施概要】

事業所番号	2191700026		
法人名	有限会社めぐみ介護サービス		
事業所名	グループホーム中野方めぐみ		
所在地	恵那市中野方町字横枕3564番地3 (電話) 0573-23-1047		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成20年7月28日	評価確定日	平成20年9月18日

【情報提供票より】 (平成 20 年 7 月 10 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 9 月 18 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 2 人, 非常勤 9 人, 常勤換算	7.4 人

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺 造り		
	2 階建ての	1 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	17,000~ 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 160 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 7 月 10 日 現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	名	要介護2	2 名
要介護3	2 名	要介護4	3 名
要介護5	2 名	要支援2	名
年齢	平均 83.8 歳	最低 76 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	森川クリニック
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

県道沿いに建つ民家を改造してできたホームである。この地域の住民は、今まで介護保険を使うことが「恥ずかしい」という意識であったが、このホームができてから「恥ずかしいことではない」という意識に変わってきた。それだけ地域住民の信頼は篤く、取れたての野菜や生花を持ってきて下さったり、集団登下校する生徒との挨拶が習慣化するなどして、まだ開設して1年にも満たないのに、地域の中にとけこんでいる。高齢者への愛着深く、経験豊かな管理者のもと、職員は年の功もあってか大らかで家庭的である。利用者も笑顔で楽しく過ごしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 今回が、初めての外部評価受審である。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価は、ホーム長が職員の意見を聞きながらまとめた。この評価の作業を通して、職員の自覚が一層高まり、ホームの運営・改善につなげている。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議で出された意見や要望は、全職員で検討し、改善・実行している。これから行政との連携を強めて独居老人や高齢者夫婦世帯に働きかけ、ホームに来てもらいお茶を飲んでもらったり、共に食事を摂っていただくことをすすめていく抱負がある。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ホームの行事や利用者の状況について、その都度電話で報告し、面会時にあらためて報告している。家族等から出された意見や苦情は職員全員で共有し、運営に反映している。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入し、「草取り」や「クリーン作戦」等の地域行事にも参加している。毎日、集団で登下校している生徒との「挨拶」が習慣になっている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念「共豊」は、玄関に大きく掲げられている。利用者も職員も地域の共に豊かになっていくことを目指している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員が理念に基づいて利用者が、一人ひとり生きがいを持って楽しく暮らしていけるよう、常に話し合い、実践に生かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、「草取り」や「クリーン作戦」等の地域行事にも参加している。毎日、集団で登下校している生徒との「挨拶」が習慣になっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、ホーム長が職員の意見を聞きながらまとめた。この評価の作業を通して、職員の自覚が一層高まり、ホームの運営・改善につなげている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1度、定期的開催し、家族は交代で出席している。会議で出されたことは、月に1度のミーティングで報告し、議論して改善し、サービスの向上に努めている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議での協議にとどまっている。	○	これからはホームとして独自に行政との連携を強め、地域の高齢者の状況を把握して高齢者に行政からも呼びかけてもらい、お茶を飲みに来てもらったり、行事に参加してもらうことを考えているので、その取り組みに期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	その都度電話で報告し、面会時にもあらためて報告している。その記録簿もある。職員の異動については、個別に報告しているが、これからは全体にも報告していく方針である。	○	「ホームたより」等を発行して、ホーム内での暮らし等を伝えていくことが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見が出される度に、管理者や職員に報告し、職員みんな考えて運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限にしている。利用者が親しんでいた職員の異動は、事前に個別に説明して了解を得るなど、細心の配慮をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員間の良い雰囲気を維持していけるようチームプレーに徹することを心がけている。60代で介護福祉士の資格を取った職員もいる。職員自身の向上意欲を引き出すように、日常的に話し合っている。	○	職員の経験や年代にも配慮した研修計画を作成し、実践されることが期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐阜県グループホーム協議会の地区支部の研修や会議に参加し、刺激を受けている。	○	同業者の現場施設を訪問するなどして、今まで以上に交流を深め、良いところを学んで質の向上につなげていく計画があるので、その実現に期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の利用者の生活や思い・希望、および、家族の思いもよく聞き取り、そのことを職員で共有し、安心して入居できるよう配慮している。	○	体験入居などを行い、馴染みながら、本人の思いに沿いながら入居してもらうことが望まれる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は一人ひとり皆違い、その人のために気配りしながら、教えてもらうことを大切にされた関係を築いている。利用者からいろいろ教えてもらいながら過ごす時間は、職員の楽しみにもなっている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>その人らしさを見いだせるよう声かけをし、働きかけている。また、声かけをすることで、利用者が考える機会にもなり、それが心身の活性化にもつながっている。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ケアマネジャーを中心にケア会議を行い、作成している。</p>		
16	37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>日頃気づいたことは、職員日誌に書いておくようにしている。また、体調等の変化があれば、申し送りで周知させている。3ヶ月に1度は定期的な見直しをしており、大きな変化が生じた時は、その都度介護計画を作り直している。</p>	○	<p>家族の意見を一層取り入れるよう、家族との話し合いを更に増やしていくことが期待される。</p>
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者は、母体法人の経営する小規模多機能型施設に出向き、その施設の職員と利用者との交流を図っている。</p>		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの方針として、協力病院だけに受診してもらおうとしている。このことについては、入居時に本人及び家族に説明し、同意を得ている。このことにより、緊急時等においても、協力病院に適切な対応をしてもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	胃ろうの利用者も入居しており、協力病院の主治医の指示・看護師の指示のもとに対応している。ホームには看護師が配置されていないので、熱発等があれば即、協力病院への受診が出来る体制がある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員間で弱者を守っていくことの大切さを確認している。利用者のプライバシーに係わることは、利用者にさり気なく声かけをして、必要に応じて別の場所に対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎朝、利用者一人ひとりに希望を聞き、実現できるよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の体調や力に合わせ、昔話をしながら食事の準備や後片付けをしている。いろいろなメニューがあり、季節感や彩りも工夫されている。食事中も笑いながら、味付けや準備中におきたことなど、会話がはずんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回、気持ちよく入浴している。入浴の順番が変わると落ち着きがなくなるため、変わらないよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりが、役割や楽しみを持っており、そのことができるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩を日課にしている。暑い時期は避けているが、朝の涼しい時に畑や花の手入れをしている利用者もいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	リスク管理が必要な利用者がある場合は、鍵をかけることもあるが、今は家庭と同じように鍵をかけないで、楽しく生活している。	○	鍵をかけることで、利用者に及ぼす影響を話し合い、鍵をかけない支援の工夫等を生み出す取り組みを検討されたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルはできているが、まだ、防災訓練等の実施はない。	○	消防署の協力を得て避難訓練を行うこと、運営推進会議において、地域の協力を得られるようにすること、2階の利用者の避難方法についてもスロープ等の設置を含めて検討していくことが望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	塩分制限のある利用者のために、薄味で統一している。量は、今までの習慣や体調に合わせて対応している。	○	水分量がしっかり摂れるシステムをつくること、役場等の管理栄養士の協力を求め、栄養バランス等の助言を受けることが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	張り出しの高い天井、彩光もよく、季節感も取り入れたゆったりとした共用空間になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの居室も広く、好みの鏡台や写真・カレンダーも置かれている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。